



同窓会報

第2号
令和3年
4月発行

岐阜県立益田清風高等学校 ● 益田清風高等学校同窓会事務局

〒509-2593 岐阜県下呂市萩原町萩原 326-1 TEL0576-52-1021 FAX0576-52-1369
URL <https://school.gifu-net.ed.jp/mseifu-hs/> E-mail c27394@gifu-net.ed.jp



益田清風高等学校同窓会報 発刊にあたり

～令和6年100周年記念に向けて～

同窓会長 小林 正和 (益田 昭和46年卒)

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、同窓会運営にそれぞれのお立場においてご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のように我が母校、益田清風高等学校は、大正13年(1924年)に創立された益田農林学校が前身であります。

以来、昭和23年(1948年)に県立益田高等学校、昭和49年(1974年)に県立益田南高等学校が旧下呂町に開校し、さらに平成17年(2007年)に益田高等学校と益田南高等学校が統合され現在の益田清風高等学校へと至っております。したがって、令和6年(2024年)には記念すべき創立100周年の大きな節目を迎えます。

この間の卒業生は2万7千有余名を超え、多くの人材が本校から輩出されました。地元下呂市はもとより、岐阜県内はじめ国内・外の各界各層でご活躍されておられ、誠に心強いものがあります。

今回、この歴史ある母校が創立100周年を迎える今、私たちはさらに素晴らしい学び舎になるよう教育環境を充実すべきと考え同窓会役員が中心となって検討を重ねてきました。こうした思いをもって記念誌の発行、記念式典、校門周辺整備等を計画し、令和元年度益田清風高等学校同窓会定期総会において、創立100周年記念事業計画のご承認をいただいたところでございます。

これまで同窓会や学校の動静を多数の同窓会員皆様にお知らせしていく方法に苦慮してまいりましたが、一連の流れのなかでこのたび10年ぶりに同窓会報を作成することができました。今後は、創立100周年記念事業や会員皆様方の情報交流、母校の情報や生徒の活躍ぶりなどもお知らせできるものと思います。なお、同窓会名簿も10年ぶりに発行を予定しております。同窓会名簿により創立100周年記念事業推進の励みとなり、また同窓会の交流がより盛んになることを願っております。

終わりに同窓会報発行にご協力をいただきました皆様に厚くお礼申し上げますとともに会員皆様のご健勝とご多幸を祈念してご挨拶とさせていただきます。



益田清風高等学校(平成17年)



益田南高等学校(昭和50年)



益田高等学校(昭和23年)



益田農林学校(大正13年)

百周年に向けて 母校のさらなる 発展を目指して



校長 今井 一三
(益田南 昭和55年卒)

令和六年に、記念すべき百周年を迎える本校の歴史と伝統は、多くの卒業生の皆様方の活躍によって築き上げられてきました。百年もの前からこの地域において、教育の中心的役割を担ってきた誇り高い高等学校です。平成時代に迎えた少子高齢化の影響で、十四年前には市内(旧下呂町)の益田南高校との統合がありました。多くの先輩方が「益高(ますこう)・益南(ますなん)」と親しみをもって呼んでいた学校が、新生「益田清風高校」として「清風(せいふう)」の愛称で地域に根付いてきました。このように、時代は大きく変化し多くのものを変えてきました。母校の名のもとに集う同窓生の皆様方の高校時代は、まるでタイムスリップしたかのように色あせることはありません。同窓生の皆様方の思いから過去を知り、新たな時代に向けて変化を遂げることは大切なことです。「温故知新」とはまさしくこのことではないでしょうか。今後も、同窓生の皆様方のご意見やご助言を大切に、「生徒の夢や希望が実現できる学校、地元へ貢献し恩返しできる学校」を目指していきたいと考えています。

同窓生の皆様方のますますのご活躍をご期待申し上げますとともに、今後も変わらぬ母校生徒へのご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

恩師からの便り

走馬灯のように



熊崎 利光
(益田 昭和47年卒)

私と本校との縁は大変深く、母校であると同時に、教員として二十二年間勤務させていただきました。定年後の初任研担当二年間を加えると、都合二十九年間この学校にお世話になったこととなります。

振り返ってみますと、昭和五十五年からの南高校の定時制勤務では、全校生徒数が少なかった分、濃密な時代を過ごさせていただきました。昭和六十二年からは、力量豊かな素晴らしい先生方と共に、力を合わせて全身全霊で教育に打ち込んだこと、そして生徒とともに弓道に励んだことが懐かしく思い出されます。現役生活最後に、母校である本校にお世話になることができました。本校では、「地域と歩み、地域と育ち、地域に貢献する学校」のスローガンのもと、先生方とともに、「地域に開かれた学校作り」「文武両道の学校作り」に邁進させていただきました。

振り返って見ますと、走馬灯のように、時々場面、同僚と生徒さんの顔が鮮明によみがえります。南飛驒の人情の厚い、風光明媚なこの地。学びそして長年にわたってお世話になった中

で、多くのすばらしい先生方や生徒の皆様さんとの出会いがありました。私、私、改めて皆様方に御礼を申し上げます。と思います。

「人間はな、人生という砥石でございしこすられなくちゃ光るようにはならないんだ。」

『路傍の石』(山本有三)の中の言葉です。在校生の皆さん、高校時代には、いろいろな砥石があります。学習・部活動・学校行事・人間関係等、すべてが自分を磨いてくれる大変「目の粗い砥石」です。臆することなく、果敢に自分を磨いてください。

卒業生の皆さん。毎日が「目の粗い砥石」で磨かれる日々だと思います。是非歯を食いしばって頑張っていただき、益田の未来を担える人材として活躍してください。在校生・卒業生の皆様方、益々のご活躍を祈念いたします。

母校は遠きにありて



熊崎 晴巳
(益田 昭和47年卒)

益田の地を離れて二十年以上経ちますが、母校で学んだ三年間と教員として勤務した時間は多くの学びを得、沢山の楽しい思い出に彩られています。高校時代はハンドボール部に所属。先輩方や女子チームは県大会常勝でイン

ターハイや国体出場など輝かしい実績を残す一方、残念ながら私達のチームは振るいませんでしたが、顧問の先生の「基礎は技術を盛る器、基礎基本を大切に」という教えはその後の私の大きな指針となりました。

一九八三(昭五十八)年、商業科教員として赴任し十四年間、経理科、事務科、商業科の担任、吹奏楽部顧問、生徒会顧問として充実した日々を過ごしました。振り返るとそのどれもが、心優しい生徒達、情熱あふれる先生方、ご支援いただいた保護者、地域の皆さんのおかげであったことを痛感します。

ある時生徒から「先生達は仲が良くて楽しそうやね」と声をかけられたことがありました。立場や主義主張は異なっても「生徒のためなら」と結末できる職員集団の良い雰囲気が生徒達の生き活きとした学校生活に繋がっていると感ずる場面が幾度もありました。

まもなく創立一〇〇周年。どんな時代にあっても同窓生の母校に対する思いは変わることはありません。これからも地域、同窓生の心の拠り所として進化し続ける母校であることを願っています。



母校への思いを形に

裕成おじさんから

学んだこと

桂川 幾郎

(益田昭和43年卒)

今から六十年以上前、まだ小学校に上る前だったろう。お盆に帰省したおじさんと一緒に風呂に入ったことがあった。豆電球だけが灯った暗い風呂桶の中で左の脇腹を見せてくれた。「これは南の国へ戦争に行った時、鉄砲の弾が貫通した傷や。野戦病院には大勢の重傷者が運び込まれておった。隣に寝とった戦友は、次の朝には死んどった」と言いながら。

ラバウルから復員した叔父は、関西で職を得た。毎年、歳暮には鮭が送られて来た。鮭は産卵のために必ず生まれ故郷に戻って来るから、鮭を送ることになっていると言っていた。益田清風高校の陸上競技部が全国高校駅伝大会に出場した時には、寄付金を携えて京都まで応援に来てくれた。故郷や母校への思いを懐き続けていたのだろう。

昨秋、亡くなる直前には、「母校の益田農林学校と岐阜農林学校に五百万円ずつ寄付をするように。若い人のために役立ててもらえ」と息子さんに告げて、その四日後に他界した。享年百歳であった。

〈生きていく間の財産は、たまたま預かっているだけ。この世を去る時はお返しする〉生き方と逝き方の手本を示してもらった。



出征直前(昭和十六年)の桂川裕成さん
(農林昭和11年卒)



令和二年十月二十八日
甥の桂川幾郎氏に感謝状

五輪代表ブレザー

母校に贈る



大同学園常務理事
高村 誠一 氏
(益田昭和54年卒)

ハンドボールの日本代表選手として、ロサンゼルスとソウル五輪に出場した高村誠一氏よりソウル五輪の時に着用した日本選手団のブレザーを寄贈していただきました。

高村さんは、本校の前身である益田高校を卒業後、日本体育大学を経てハンドボールの強豪実業団、大同特殊鋼で活躍され、両五輪の代表メンバーに選ばれ、世界最高峰の舞台に立たれました。

「自分でも五輪に出られた。人生、全員にいろいろなチャンスがある。それぞれの道で諦めないで頑張ってほしい」と母校の後輩達に元氣と勇気を与えようと自宅に保管してあったソウル五輪代表のブレザーを贈っていただきました。ブレザーは本校一階の展示コーナーに飾られ、在校生を勇気づけています。

檜の学習机と椅子

母校に寄贈



山喜建設株式会社 代表取締役
布目 美智男 氏
(益田昭和54年卒)

令和二年に弊社の社債発行を機に、益田清風高校のご意向に定める形で、地元産の檜で製作した学習机と椅子を寄贈させていただきました。

母校への思いは感謝という言葉に余りありません。わたくしをはじめとする家族の人生においても、学習や部活動で培った経験と先生方のご指導が今日のわたしたちや弊社の経営に繋がっています。子供たちにおいては在学中に留学し帰国後の進路指導では大変お世話になりました。これからも地元下呂市の唯一の高校として御校の更なる発展を祈念しております。

第97回 東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)



箱根駅伝で活躍できた原点

國學院大学陸上競技部 殿地 琢朗

(益田清風平成30年卒)

箱根駅伝で一年次から出走できたのは高校時代の積み重ねが基盤となっているからだ実感しています。大学に入学して高いレベルの競い合い、毎日練習に明け暮れる日々の中で、辛い時期や心が折れそうになった事が幾度とありました。しかし、憧れの箱根駅伝の選手に選ばれ力強い走りができた時、これまでの経験の全てが大きな財産であった事に気づく事ができました。

箱根の大舞台では、走る力だけで結果を出すことはできません。二年生で第九十六回大会のアンカーというプレッシャーのかかる大一番で総合三位のトップを切ることができ、チームに貢献できたのには、高校時代に培った忍耐力や精神力があつたからだと確信しています。

益田清風高校での三年間が礎となり、大学の舞台につながっていることを感謝しています。



『目的意識』を持つ

神奈川大学陸上競技部 安田 響

(益田清風平成30年卒)

私が高校時代の部活動で学んだ事は、『目的意識』を持つことです。

陸上競技部はひたすら走る…入部当初はそんな思いしかありませんでしたが、練習の意味・目的を理解し明確に取り組むという『目的意識』を持つことで目指すべき姿がはつきり見えるようになりました。それがもつと高いレベルにチャレンジしたいという向上心に繋がり、現在も大学で競技を続けています。

大学では練習内容や体調管理等ほぼ全ての事を自己管理します。『箱根駅伝出場』という目標達成のために必要な、日々の行動を導き出す力を得られたのは、高校時代の部活動での学びがあつたからです。これからも『目的意識』を持ち、競技のみならず様々なことに意欲的に取り組みます。

男子第71回 全国高等学校駅伝競走大会

都大路の舞台での経験

石丸 朋弥

(益田清風現在3年生)

全国高校駅伝では、多くの応援や御支援をいただき、ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響で多くの大会が中止するなかで、県大会・全国高校駅伝という大会を開催していただけることの有り難さを改めて実感しました。多くの方々のご尽力のおかげで仲間と共に目指した舞台、感謝の思いを込めて最善の準備のもと全力で駆けぬけることができ、大きな経験となりました。全国で戦うには自分達の競技レベルが低いことも痛感しました。

新型コロナウイルスとの戦いは収束していませんが、2021年も都大路での大会が開催されることを信じて、全国で戦いぬく力をつけるために、一日一日を大切に心も体もチーム力も鍛えていきます。

更なる飛躍を目指して

岩島 共汰

(益田清風令和3年卒)

全国高校駅伝ではたくさんの応援ありがとうございました。新型コロナウイルスにより多くの大会が中止となる中、大会を開催していただけたことに感謝の思いが強くなりました。仲間や指導者の先

生方と共に、都大路を走りぬぎ、襷をこなぐことができました。

「全国で戦う」という目標を持ってレースに向かいましたが、三十五位という悔しい結果となり、全国のレベルの高さを実感しました。この悔しさは都大路という舞台に立ったからこそ感じられるものであり、全国の仲間との真剣勝負にのぞむ凛とした雰囲気や緊張感などを味わえたことは、新たな目標に向かう原動力となりました。何より、都大路に向けてチーム一丸となつて努力した日々は、かけがえない思い出となりました。この経験を糧に更なる飛躍を目指して取り組んでいきます。これからも益田清風の陸上競技部をよろしくお願いします。



岩島共汰君(左)から石丸朋弥君(右)へ襷を繋ぐ

インターハイ出場

ソフトテニス部(男子) H23
 ソフトテニス部(女子) H25 H28 R1
 弓道部 H26 男子団体・個人 H27 男子団体(4位入賞)女子個人 H30 女子個人
 陸上競技部 H22 男子やり投準優勝 男子砲丸投 女子1500m
 H23 男子砲丸投 女子円盤投 女子走幅跳
 H24 男子砲丸投(8位入賞)
 女子砲丸投 女子800m 女子1500m 女子3000m
 H25 女子800m(3位入賞) 女子1500m 男子1500m
 H26 女子3000m(4位入賞) 女子1500m 女子走幅跳
 男子1500m 男子円盤投
 H28 男子砲丸投
 H29 男子1500m 男子5000m

女子バレー部 H23

全国高等学校弓道選抜大会 H22 女子団体

全日本高等学校バレー選手権 (春高バレー) H26 H29

全国高校駅伝競走大会出場 H22 女子 H24 女子 H29 女子 R2 男子

都道府県対抗駅伝出場 H22 女子 H23 女子 H24 女子 H25 女子 H26 女子
 H28 男子女子 H29 男子女子 R1 女子 R2 男子女子

国民体育大会(国体)

陸上競技部 H22 男子やり投(4位) 男子砲丸投(3位) 女子3000m
 女子100m(5位) 女子4×100mR 女子走幅跳

H23 女子走幅跳

H24 男子砲丸投(6位) 女子走幅跳(4位)

H25 女子3000m(3位) 女子800m(8位)

H26 女子3000m(4位)

H29 男子5000m(10位)

H30 男子3000m

ハンドボール部(女子) H22

弓道部 H27 男子個人



全国総合文化祭出場 美術部 H22 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3(10年連続)

日本学生科学賞出品 自然科学部 H28 H30

全国英語ディベート大会出場 インターアクト部 H22 H23 H26 H27

全商英語スピーチコンテスト出場 H29

観光甲子園出場 H25(優秀賞) H26(準グランプリ) H27(準グランプリ)



普通科

単位制普通科として、国公立を中心とした四年制大学や医療・看護系の学校への進学を目指します。2・3年生では国公立大学への進学を目指す特進クラスを設定し、個々の学力を伸ばす取り組みをしています。

過去5年間国公立大学合格 (複数合格含む)

北海道大学 秋田公立美術大学 埼玉県立大学
茨城県立医療大学 長岡造形大学 新潟大学
上越教育大学 富山大学 富山県立大学
金沢大学 福井県立大学 都留文科大学
山梨大学 信州大学 長野県立大学 岐阜大学
岐阜県立看護大学 静岡大学 静岡文化芸術大学
名古屋大学 愛知県立大学 三重大学
滋賀大学 大阪大学 大阪府立大学 鳥取大学
島根県立大学 徳島大学 高知大学



学習合宿



大学見学

総合学科

1年次は共通の内容を学び、2年次から将来の進路希望に合わせた4つの系列に分かれ、専門的な内容を学びます



保育系列

子ども達と関わる実習を多く行い、将来は保育士、幼稚園教諭として活躍できる力を身につけます。



食文化系列

食品や調理、食文化について幅広く学び、将来は、地域の観光や地元食材の流通を盛り上げていく力を身につけます。



観光文化系列

下呂温泉や飛騨地域の観光、文化を学ぶことで地域理解を深めます。



福祉系列

卒業後は、福祉や介護の現場で活躍できる力を身につけます。

ビジネス情報科

県下初の単位制商業科として、1年次は共通科目を学びながら自分の専門とした分野を選択し、2・3年次からは3系列に分かれて学習します。



アカウンティング(会計)系列

企業の財務担当や経営コンサルタントを目指すために必要な会計に関する知識・技術を中心に身につけます。



マーケティング系列

経済の基本的な仕組みや流通に関する知識を学び、商品開発などの実践的な取り組みを行います。



情報デザイン系列

ビジネス活動に必要なIT技術について学びを深めます。



4月・入学式



学校行事



4月・対面式



4月・部活動紹介



5月・生徒総会



6月・修学旅行



9月・文化祭



10月・命の大切さを学ぶ講話



10月・球技大会



11月・芸術鑑賞会



12月・ライトアッププロジェクト



1月・ビジネス情報課題研究発表会



1月・総合学科学習成果発表会



1月・普通科探究の時間発表会



2月・三送会



3月・卒業式



農林坂(益高坂)の桜

地域から親しまれている益高坂の桜並木は、母校愛に満ちた二人の高校生の熱意から始まりました。今から六十五年前、益高が大好きな二人の高校生が高校生活の証として庭木を残そうと思い立ち、三本の桜の苗木を植樹しました。その苗木は、京都での大学受験を終えた二人が、園芸店で偶然に桜の苗木を見つけ、苦労をして各駅停車を乗り継いで持ち帰ったものです。翌日、自分達の「想い」を先生に伝えると、「君たちの記念樹ならば大いにやりなさい」と賛同してくださったそうです。

小西(中谷) 博之さん、渡辺松雄さん、二人の益高を愛する想いは後輩に受け継がれ、毎年、数本ずつ卒業時に植え増やし、今の立派な並木となっています。

創立九十周年には、新しい桜の苗木を三本植樹し、春には若々しい花を咲かせ後輩たちにエールを送っています。

令和六年、創立一〇〇周年を迎えます。同窓生の「想い」をこれからも引き継いでいくことができるよう、校門及び桜並木周辺を整備し、本校で学ぶ生徒が母校に親しみを持ってくれるよう努めたいと考えております。

同窓会名簿作成の

お知らせ

令和三年度と同窓会名簿を発行します。今回は益田農林学校、益田高校、益田南高校、益田清風高校をまとめて編集いたします。

郵便による調査が始まりますので住所不明者の情報をご存じの方はご協力ください。住所、電話等を記載したくない方は、名簿の案内はがきに意思表示をしてください。

証明書の発行について

卒業証明書、単位修得証明書、調査書が必要な方は益田清風高校のホームページ「証明書発行」をご覧ください。なるか、益田清風高校にご連絡ください。

交付には「証明書交付願」受付から発送まで約一週間かかります。余裕をもって御申し込みください。

編集後記

益田清風高等学校として新たな歩み始めてから十五年が経過しました。学生でいえば、義務教育を終え、自立への一步を踏み出す時期でしょうか。その間、本校は全日単位制となり、一人ひとりの自立に向けて、より多様で充実な学びの場へと変わっていきました。

毎春、桜満開のなか、学習を始める本校の生徒たちは、地域の方々にご支援助いだきながら生き生きと活動しております。前年度は、コロナ禍で文化祭が中止となりましたが、生徒たちの創意工夫により、十二月にライトアップキャンペーンの開催が実現できました。地域に明るい話題を提供することができたのではないかと思っております。

困難な時でもそれを乗り越えようとする「豊かな創造力」は、春を彩る満開の桜のように、先輩から後輩へと、これからも引き継いでいってほしいと思います。2024年、満開の桜とともに創立一〇〇周年を皆様と祝うことができますことを願っております。

同窓会報の発行にあたり、ご多用の中、原稿、写真の提供をいただいた方々に深く感謝するとともにお礼申し上げます。

編集委員

小林正和・金子文一・桂川 豊・青木幸美
細江大嗣・青木重樹・船坂新也・岡崎壮男
奥田朋子・大坪卓也